

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【図画工作科】

1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

小学部肢体重複学級1・2年生9人（男子6人、女子3人）の集団。医療的ケア（吸引・注入）の必要な児童が1名在籍している。また両眼ともに明暗を感じる程度の視覚障害を併せ持つ児童が2名在籍している。前題材までの図画工作の学習の中で、使いたい材料（京紙や障子紙）に手を伸ばしたり視線を動かして選んだりする様子や、自ら手や指を動かして形を変化させながら表現そのものを楽しむ姿が見られている。

2. 単元名「ぬりぬり ペたぺた ～バラを感じよう～」（全 8時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	絵の具のついた手や足を動かすことで、画用紙や障子紙に色が付くことがわかる。
思考力, 判断力, 表現力等	校外学習で摘んだバラの花の色、香り等から、バラの花をイメージして、「自分のバラ」を現することができる。
学びに向かう力, 人間性等	自分から材料に手を伸ばし、画用紙や障子紙に色がついたり広がったりする様子を楽しみながら見るができる。

4. 本時の目標 省略

5. 授業展開【 単元 】

解決したい課題や問い

みんなは、校外学習でどんなバラを摘んできたのかな？色とりどりのバラ、様々な香りのバラ、花びらやドライフラワー等、形を変えたバラなど、感じ取った「自分だけのバラ」を画用紙に表して友達に伝えてみよう。
（実際に校外学習で摘んだバラをドライフラワーにしたもの、生花のバラ、花びら等を触れながら課題や問いを投げかける）

考えるための材料

材料 A	材料 B
五感を働かせながら材料と関わることができるよう複数の選択肢（温度の違う絵の具・バラの花びら入り絵の具・糊絵の具・バラの香り絵の具）を準備する。	既習の体験（校外学習）とつながりをもった学習内容を設定する。（教科間のつながり）
想定される活動	想定される活動
温度の違いや香り、触感等の違いに気づき、違いを確かめるように動きを止め、好きな材料（絵の具の感触・色）を自分で選ぶ。	バラの花びらの感触や香り、色とりどりのバラの花等からバラを感じ取ったり、花摘み体験で感じた感覚を思い出したりしながらバラに触れる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

①対話の方法

材料との対話・教員との対話を通して、「〇〇したら△△になった。」という体験を、教師とともに繰り返し実践していく。子どもたちの好きな感触の絵の具を会話を通して共有したり、校外学習で行った花摘みの感覚を香りや感触から思い起こしたりできるようにする。

②対話や思考のプロセス（子どもの言葉で想定）

「この香り、知っている。」「いろいろな色の花が咲いていたな」「ぼくはピンク色のバラがいいと思ったよ」「花びらを触ったとき、やわらかかったな」「先生が「いい香り」って花をぼくに近づけてきたよ」「〇〇さんのバラもきれいだったな」「自分の摘んだバラの感じを伝えてみようかな」「△△さんのバラの絵、すてきな。いい香りがする」「ぼくの絵もあのときのバラの香りがするといいな」

学習の成果（予想される子どものあらわれ）

「いろいろな感触・温度・香り、様々な色の絵の具があるな」「ぼくの好きな絵の具は、校外学習のときに摘んだバラの香りがする桃色の絵の具だよ」「香り絵の具をつけた手を紙の上に置いたら、じゅわっと絵の具があふれてきて、画用紙の上にきれいな桃色がついたよ。大きなバラの花みたいになったよ。」「指先でトントンしながら色をつけてたら、バラの花びらが躍っているみたいになったよ」「今後は、違う絵の具でやってみようかな」「今度は、違う色のバラを描いてみようかな」「たくさんバラができたなら、バラ園を作って校外学習のときみたいにみんなで散策したいな」